

音楽のおくりもの Information

Spire_M

小学校版
通巻第19号

学習指導案

鑑賞は、もっと楽しくなる。

表現活動に生かす鑑賞活動で、子どもも授業も生き生き!!

岐阜大学教育学部附属小学校 竹井 秀文

楽しく学ぶ日本の音の世界

新潟大学教育学部 伊野 義博

篠笛を教える教育現場の先生方へ

邦楽囃子笛方 福原 徹

新しい教科書

音楽のおくりもの

ができました!



教育出版

新しい教科書

音楽のおくりものが できました!

学習指導要領改訂に合わせ、「音楽のおくりもの」が新しくなりました。
子どもたちが楽しく学習に入れるように、楽しいイラストや美しい写真を掲載し、
わかりやすく、見やすいデザインは、色覚バリアフリーにも配慮しています。

また、判型の拡大に合わせて楽譜をすべて作り直し、
音符や歌詞が読みやすくなるよう改良を加えました。

そのほか、資料写真やコラム記事の充実など、
新しくなった「音楽のおくりもの」をぜひお手に取ってご覧ください。



判型が新しい

当社従来品より横幅を28cm拡大,
楽譜もゆったり、写真も挿絵もワイドに広がります。

幅が広がった判型 (AB判)

新しい
音楽の
おくりもの

うたにあわせてからだをうごかそう

どれみのキャンディー

どれみのキャンディー

どれみのキャンディー

どれみのキャンディー

当社
従来品

うたっておどってどれみとあそぼう

どれみのあそぼう

どれみのキャンディー

どれみのキャンディー

28mm

28mm

ここが新しい

メッセージが新しい

はじめ
4年生の巻頭では元ちとせさん、6年生の巻頭ではヨーヨー・マさんのメッセージと写真をそれぞれ掲載しました。



▲6年巻頭



▼4年巻頭



資料写真が新しい

美しく、資料性の高い写真を多数掲載しています。

▼5年p.28



◀6年p.66-67

ここを改良しました

見やすい楽譜

歌詞は大きく、五線もくっきり見やすくなりました。

♩=120
f

1 か が や く ひ の か ー
2 と ぶ と ぶ お お ぞ ー
3 や ま こ え お か こ ー

▲従来の教科書

♩=120 ぐらい
f

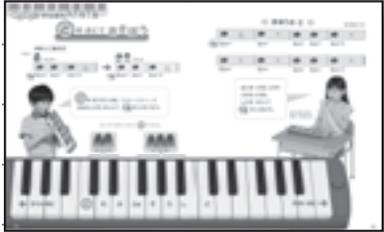
1 か が や く ひ の か ー
2 と ぶ と ぶ お お ぞ ー
3 や ま こ え お か こ ー

▲新しい教科書

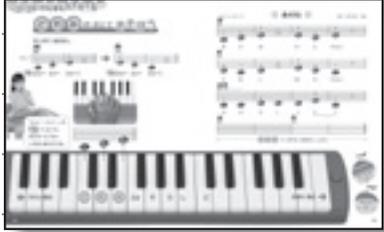
鍵盤ハーモニカと
リコーダーのページ



◀1年p.30-31



◀1年p.32-33



◀1年p.34-35



◀1年p.36-37

鍵盤ハーモニカとリコーダーの導入は
連続8ページ構成！
1音ずつ着実に学習していきます。

マークとアイコン

▼2年p.14-15



新出事項

「音楽のもと」
(共通事項など)



題材名

「リンク」
資料の活用

▲3年p.46-47



もっとあそぼう

学習したことを
活用しながら、
音楽活動を展開

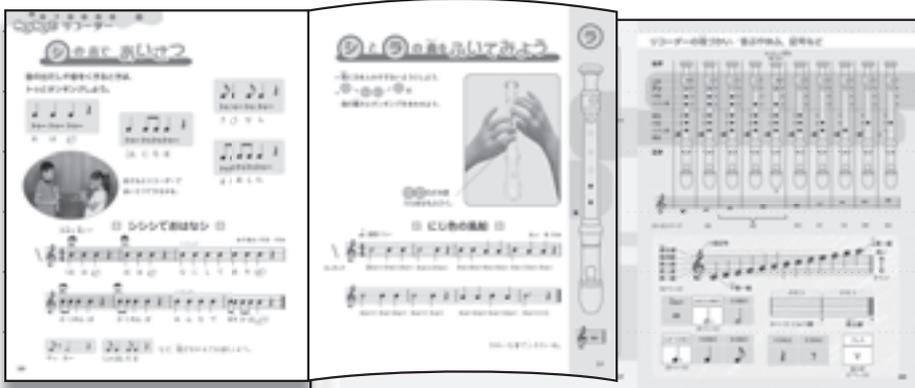
「活動のポイント」
指導上の留意点や
評価のガイド

▲2年p.44-45

「ふりかえる」
学習の振り返り

★「ふじ山」 3年 P.34

富士山の写真は多くの写真家が撮影していますが、「あたまを雲の上に出し…」 「からだに雪のきものきて…」など、この楽曲の歌詞に写真の内容がピッタリ合っていて、しかも美しいものとなると見つけるのは大変難しく、教科書の改訂のたびに毎回苦労する写真のひとつになっています。今回は自然風景写真家・鳥越章夫さんに、この難しい写真の撮影をお願いしました。何日が撮影してもらいましたが、このような美しい富士山が撮影できたのは、この写真を撮影した日だけだったそうです。

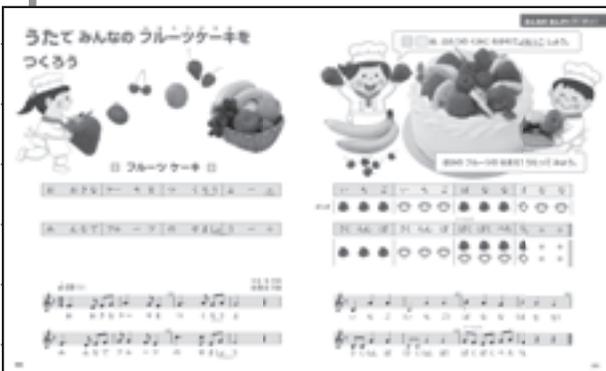


★「リコーダーの指づかい」 3年 P.68

当社の従来品では、指づかいを確認する際、ページをめくる必要があり、練習を中断しなくてはなりません。今回の教科書では、本文の楽譜を開いたまま、巻末のリコーダーの指づかいのページを参照できる仕様になっています。練習に集中し、リコーダーを楽しんでもらうための配慮です。

★「フルーツケーキ」 1年 P.50

このページには美味しそうなケーキや果物が載っていますが、ケーキはフードコーディネーターの方に制作いただいたものを撮影しました。歌詞にあるとおり「いちご…ばなな…さくらんぼ」をトッピングしたこのケーキ、撮影後にスタッフ一同で「ぱくぱくぺろりん」といただきましたが、見た目だけでなく、食べても、とても美味しいケーキでした。



鑑賞は、もっと楽しくなる。

表現活動に生かす鑑賞活動で、子どもも授業も生き生き!!

第6学年 10月実践

◆題材名「曲想を感じ取ろう」



岐阜大学教育学部附属小学校 竹井 秀文

1 ● 題材目標

反復の面白さを味わってリコーダーを演奏することや、音色の異なる楽器がかかわり合う響きや主題が反復・変化していることを感じ取り、面白さを味わうことができる。

2 ● 教材群

「カノン」「青少年のための管弦楽入門」

3 ● 題材について

反復・変化については、「いろいろなひびきを味わおう」という5年生の題材で、バイオリンとチェロの音色の違いや重なり的美しさを感じ取ったり、主題が反復・変化していく面白さを感じ取ったりしてきた。また、音色については、「重なり合う音の美しさ味わおう」という6年生の題材で、和音の響きの美しさを味わいながら演奏の仕方を工夫し、和音のつけ方の違いによる曲想の変化を感じ取るなどした。

そこで、本題材では楽器の音色や曲想の変化を感じ取る力を生かし、音色と反復・変化を関連させ、前題材からの発展を図りたい。

さらに、リコーダーの音素材の特徴を生かし、リズムや旋律線を工夫して変化・対照する旋律を創作する中学校の題材「曲の構成」へつなげていきたい。

本時は次に示す鑑賞教材を用いる。

曲名	作曲者
ヘンリーパーセルの主題による変奏曲とフーガ作品34「青少年のための管弦楽入門」	ベンジャミン＝ブリテン

本時で扱う教材は、ヘンリーパーセルの主題による変奏曲とフーガ作品34「青少年のための管弦楽入門」である。この曲は、イギリスの作曲家ベンジャミン＝ブリテンが、オーケストラを紹介するために1946年に作曲した作品である。オーケストラで使われている楽器を一つ一つ紹介しながら曲が進んでいくところが面白い。

今回は、およそ18分になる全体を聴かずに、主題がそれぞれの大きなセクション（木管・金管・弦楽器・打楽器）に分けられて演奏されている部分を聴き分ける活動から取り組みたい。さらに、それぞれ音色の異なった楽器が協調し合って響く美しさや主題を反復・変化させている面白さを知覚・感受することを「発見」として鑑賞活動を進めたい。

4 ● 題材にかかわる児童の実態

音が重なり合う響きを感じ取ることは、前学年の題材「いろいろなひびきを味わおう」で学んできた。そこでは、ピアノ五重奏曲「ます」を鑑賞し「同じ旋律でも、バイオリンとピアノで演奏すると元気に泳いでいる『ます』になるね。」などと、主題を演奏する楽器の音色と曲想の変化を感じ取っていた。本題材では、前題材で身につけた力を生かし、音色と反復・変化などのかかわり合いを、感じ取って聴くことをねらっている。まず「カノン」では、反復の面白さを味わいながらリコーダーを演奏する。

次に「青少年のための管弦楽入門」の鑑賞をする。ここでは、反復だけでなく、主題が変化していく面白さを感じ取らせたい。



5 ● 題材指導計画

6年	10月	3時間	題材	曲想を感じ取ろう	教材群	「カノン」「青少年のための管弦楽入門」
題材目標	反復の面白さを味わってリコーダーを演奏することや、音色の異なる楽器がかかわり合う響きや主題が反復・変化していることを感じ取り、面白さを味わうことができる。				評価規準	ア 楽器の音が重なり合う響きの美しさや反復・変化に関心をもって聴いたり、音を合わせる喜びを味わいながら表現しようとしたりしている。
学習指導要領	A表現(2)エ B鑑賞(1)イ・ウ 〔共通事項〕ア(ア)音色(イ)反復・変化					イ 楽器の音が重なり合う響きや反復・変化を感じ取り、自分のパートをやわらかい出だして演奏しようとして工夫している。
時	1			2		3(本時)
教材配列	カノン————— 「青少年のための管弦楽入門」—————					
本時の目標	旋律が反復される面白さを感じ取って聴いたり、進んで演奏したりすることができる。		旋律の反復を感じ取りながら全体の響きを工夫してリコーダーを演奏することができる。		音色の異なる楽器がかかわり合う響きの美しさや、主題が反復・変化する面白さを感じ取りながら、曲想の変化を味わって聴くことができる。	
学習活動	1 バッヘルベルのカノンを鑑賞する。 2 リコーダーの範奏を聴く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">くり返されるふし(せん律)を楽しみながら演奏しよう。</div> 3 リコーダーで演奏をする。 4 別の楽器によるカノンを聴き、反復の面白さを味わう。		1 それぞれのリコーダーパートを合わせて演奏する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">くり返されるせん律のおもしろさとその重なり的美しさを感じ取りながら演奏しよう。</div> 2 反復される旋律やその重なりと、曲の広がりを感じ取りながら演奏する。 3 全体の響きをよりよいものにするために、各パートの出だしやバランスを工夫する。 4 「青少年のための管弦楽入門」の中間部分を聴く。		1 「青少年のための管弦楽入門」を鑑賞して、めあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">曲がもっているくり返しの美しさ、おもしろさを発見しながらきいてみよう。</div> 2 主題を中心にそれぞれのセクションを分割したものを聴き、個々の楽器あるいは同じ仲間の楽器の音色や反復・変化を感じ取る。 3 再度、主題とそれぞれのセクションの部分を聴き、感じ取ったことを音楽ノートに整理する。 4 前半部分で感じ取った音色と反復・変化を生かしながら、曲全体のよさを味わう。	
評価規準	楽器の音が重なり合う響きの美しさや反復・変化に関心をもって聴いたり、音を合わせる喜びを味わいながら表現しようとしたりしている。(ア)		全体の響きを聴き、自分のパートをやわらかい出だして演奏しようとして工夫している。(イ)		木管・金管楽器、弦楽器、打楽器の音色がかかわり合う響きや、主題の変化を感じ取り、曲想の変化と関連づけて聴いている。(エ)	
他題材・他学年との関連	第5学年 「いろいろなひびきを味わおう」 「ます」で味わった、バイオリンとチェロなど、弦楽器の音色の違いや、主題が反復・変化していく面白さを想起させる。		中学校 第1学年 「曲の構成」 リコーダーの音素材の特徴を生かして、「リズム」「旋律線」を工夫して「変化・対照」する旋律をつくり、構成する活動へつなげる。			

6●本時

(1) 本時の目標…音色の異なる楽器がかかわり合う響きの美しさや、主題が反復・変化する面白さを感じ取りながら、曲想の変化を味わって聴くことができる。

〔共通事項〕ア(ア)音色(イ)反復・変化

(2) 本時の評価規準…音色の異なったさまざまな楽器がかかわり合って生まれる響きの美しさや主題の反復及び変化の面白さを感じ取って聴いている。

(3) 本時の展開 (3 / 3)

過程	学習活動	指導・援助 及び評価
つかむ	1 「この楽器の音色は? -オーケストラ版-」で楽しむ。 2 「青少年のための管弦楽入門」を鑑賞して、めあてをつかむ。	・楽器の音色がわかる遊びをして、本時の学習につなげる。 ・オーケストラの楽器配置図や作曲者について補足説明する。
	曲がもっているくり返しの美しさ、おもしろさを発見しながらきいてみよう。	
深める	3 主題を中心にそれぞれのセクションを分割して聴き分け、個々の楽器あるいは同じ仲間の楽器の音色や反復・変化を感じ取る。 ・「青少年のための管弦楽入門」の主題と木管・金管・弦楽器の部分のみを聴かせて、音色の違いや反復、変化及びそのかわりについて感じ取る。 4 主題とそれぞれのセクション(木管・金管・弦楽器・打楽器)に分けられて演奏されている部分を聴き、わかったことを音楽ノートに整理する。 ・楽器の音色について (金管は、パンパンという音色だ。) ・主題における音の重なりについて (違う音色なのに重ねると美しい。) ・主題の反復について (主題の繰り返しをいろんな楽器で演奏していて面白い。) ・主題の変化について (主題と少しずつ違う旋律だね。)	・最初は、主題提示(主題・木管・金管・弦・打楽器)の部分を鑑賞する。 ・どの順番で演奏されているのか予想させて鑑賞させる。 ・各セクションの響きの違いや楽器の特性に合わせた役割など様々な相違点を見つけ出せるように聞き比べ、感じ取る活動をさせる。 ・楽器の音色と反復・変化などを十分に感じ取り、その根拠をはっきりさせるために音楽ノートを配布し、記入させる。 以下のような内容を記入させたい。 ・各セクションの楽器の音色 ・主題における音の重なり的美しさ ・主題が反復されている面白さ ・主題が変化している面白さ ・主題とセクションとの関係
味わう	5 聴くポイントを明確にして、曲全体のよさ(曲想)を感じ取る。	・曲の最後のフーガのところを聴き、曲全体がもつ魅力について語り、最後も主題を生かした変化であることを伝える。

7●指導の実際

(1) 音楽遊び「楽器当てクイズ(この楽器の音色は?)」

音楽の授業は、楽しい雰囲気づくりが大切である。ただし、楽しいだけではなく、そこに学びたいとする必然が生まれるようにしたい。本時では、楽器カードを机の上に並べ、鑑賞曲を聴く。それぞれの曲を聴き、楽器の音色を当てるゲームをする。独奏、重奏など出題を工夫し、音色のよさを味わわせる。

T: 実は、ある考えをもって出題しました。わかりますか?

C: 弦楽器、木管楽器、金管楽器の順番で出題している。

C: 独奏の曲から重奏の曲にしている。

T: よく気がつきましたね。一つ一つの楽器の音色もきれいだし、同じ種類の楽器の音色の重なりもきれいだよね。じゃあ、種類の違う楽器の音色は重ねると汚くなる?

C: そんなことない。違う楽器の音色も重ねるときれい。オーケストラを聴けばわかるよ。

このように鑑賞活動への必然が生まれ「よし聴こう」という学び=ねらいを子どもたちとつくること

ができる。

(2) 鑑賞活動「多様な鑑賞活動（8回の鑑賞活動）」

今回の展開では、鑑賞曲「青少年のための管弦楽入門」を8回鑑賞する。

鑑賞1回めは、目を閉じて聴く。心から感じたことを感じたままに聴く。子どもたちは、「激しい」「迫力がある」など思い思いに発言していた。

鑑賞2回めは、その言葉と要素とを結びつけながら聴く。感じ取ったことが、どの要素と結びついているのかを考えさせながら聴く。

鑑賞3回めは、リコーダーで主題を吹いた後に聴く。主題を吹くことで、主題が繰り返されていることがよくわかる。

鑑賞4回めは、主題が何回繰り返されていたのかを考えながら聴く。

鑑賞5回めは、主題が6回繰り返されていることを確認しながら聴く。反復という仕組みを感じ取る時間である。また、聴いた後にどんな6回だったのか確認する。最初は全員、次は木管、金管、そして弦、打楽器、そして最後にまた全員という6回の変化をしっかりと感じ取ることができた。ホワイトボードを6分割して、まとめていくことにした。

鑑賞6回めは、本当にそうになっているか確認して、各セクションの音色の違いを口ずさみながら聴く。音色の違いを考え、口ずさむことは、子どもたちが楽しめる活動といえる。授業では、木管は「ファー」、金管は「パン」、弦は「キー」、打楽器は「ドン」となり、口ずさむ姿が見られた。

鑑賞7回めは、音色の他に何か違うところ（要素）がないか考えながら聴く。

T：主題が反復していることがわかったね。音色以外に気がついたことない？

C：メロディーが違うよ。 C：調も違うんじゃないかな。

T：すごいすごい、よく聴いています。そのとおり。旋律も調も違うんだよね。それを変奏曲というよ。あ!!ここに書いてある。「パーセルの主題による変奏曲」って、つまり「反復・変化」しているんだよね。すごい発見したね。

以上のように、旋律の変化や調の違いを感じ取ることができた。それは主題をリコーダーで演奏したり、短調・長調の学習をしたりしていたので、すぐに感じ取れたのだろう。

鑑賞8回めは、味わって聴く。最後にじっくり聴き味わうことはとても大切だと考えている。指揮をしながら聴いたり、スコアを見ながら聴いたりした。8回めの鑑賞でも、集中し楽しむ姿が見られた。

(3) まとめ「表現へ生かす鑑賞」

T：ねえ、今日聴いたことを自分たちの表現に生かせそうなことはない？

C：つばさをください。歌声とリコーダーだ。

T：そうそう。ちがう音色でもかかわり合って、重なり合って、反復したり変化したりして、曲の特徴をつくっているよね。それを知って、演奏すると面白いし、楽しいよね。

以上のように授業をまとめた。鑑賞を通して学んだことは、音楽表現へ生かすべきだという信念をもって、本実践を締めくくることにする。



楽しく
学ぶ

日本の 音の世界

新潟大学教育学部 伊野義博

1

日本の音に目を向ける

例えば、携帯のストラップに付けられている鈴…。お隣の先生と一緒に振ってみてください。とても日本的な響きがしますね。縁日で買った鳩笛…。紙の巻笛…。私たちの周りは日本の音で溢れています。あたりまえのことですね、日本に住んでいるわけですから…。ただ気がつかないだけなのです。

和楽器というと、箏、三味線、尺八のような日本の伝統的な楽器だけをイメージしてしまいがちです。しかし、ここではもっと広くとらえ、こきりこや当たり鉦など、民俗芸能の音楽に用いられている楽器はもちろん、歌舞伎などで使われる擬音笛やでんでん太鼓など、日本を感じさせる音具や玩具まで範囲を広げて考えます。

自然や生活、あるいは四季折々の催しにおける音の世界から伝統的な芸術音楽に用いられる楽器までを同一線上に置き、日本的な音の感覚や音楽の傾向をとらえようとする発想です。こうすることにより、日本の音の世界に気づき、そこに子どもが自然に入り込むことのできる多様な実践も可能になると考えます。ここでは、特に小学校や中学校で日本の音の世界に浸り、楽しみながら学習するといった観点から、導入的なプランを紹介します。

2

基本的な取り組みや考え方

▶日本の音に気づき、その世界を楽しもう

毎日の生活で溢れている音に注目すると、雑多な文化が入り交じっていることに気がつきます。この中から、「日本」を感じさせる音を取り出して、その世界を楽しみましょう。家庭にある玩具やテレビの音世界、あるいは、自然や祭りの音などがヒントになるでしょう。まずは、音の出るものすべてに注目してみましょう。

▶音の多様性を味わおう

日本の音や楽器は、どれも個性的で独特な音色を主張してきます。そうした音の個性に注目しましょう。個々の音の違いを楽しむのはもちろんですが、例えば、木、革、竹、糸、金属などの素材に分類したり、「はじく、こする、すくう」など奏法の違いに注目したりして、多様な音の世界を感じ取ります。雅楽や歌舞伎の黒御簾音楽、祭り囃子など、日本の合奏は、こうした個性的な音色の集まりです。

▶ 日本的な音の感覚を引き出そう

例えば、「セーノ」「ドッコイショ」などといった表現には、表拍（セー）裏拍（ノ）といった拍感が伴います。また、「イヨーッ ポン」で手を叩くときには、日本的な間（ま）を感じ取ることができます。私たちは既に、こうした日本の音楽のもととなる感覚の中で生きています。日本的な拍感、余韻や静寂、間、互いに見はからって合わせるといったような、身体の内にある感覚を引き出すことです。

▶ 日本語とのつながりを生かそう

その際、日本語の特性に注目し、それに伴う身体的な感覚とともに、楽器や音楽とのつながりを生かすといった視点をもつようにします。仮に子どもが目前のものを「ヒトーツ、フターツ」と指をさして数えたとき、その指先には日本的な拍や間が生まれているのです。また、虫の声を「チンチロリン」「リンリンリン」と表現するように、豊富なオノマトペをもつ日本語の響きと感性は、楽器を奏する際の「ドンドンドン」「テントンシャン」などの唱歌（しょうが）に直接的に結びついているのです。

▶ 音楽の仕組みを使って音楽づくり

日本の音の世界に浸りながら、音楽づくりを楽しみましょう。冒頭の携帯ストラップの鈴でまずは「反復」してお気に入りのリズムを作る、それを友達と「問いと答え」で鳴らしてみる、するとたちまち素敵な音楽になりますね。他の音も入れて「変化」をさせたり「音楽の縦と横の関係」を工夫したりするとクラス全体に和の響きの世界が生まれてきます。ただし、指揮者は必要ありませんね。よく音を聞き合って、互いの息づかいや呼吸、間合いを見はからって合わせてください。

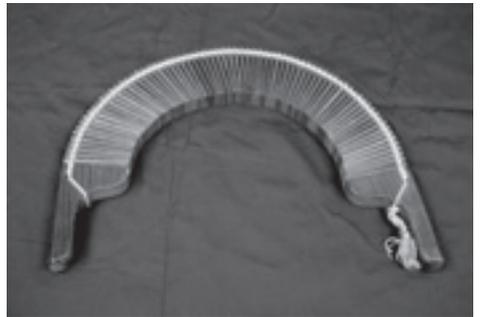
3

実践プラン

それでは、いくつかの実践プランを紹介します。ここで紹介するのはあくまでも発想例ですので、これを参考にさまざまに工夫していただきたいと思います。

◎日本の音を集めて鳴らして：玩具、音具、民俗音楽の楽器の音色と音楽づくり

- ・でんでん太鼓、陶器や磁器の笛（鳩笛、ウグイス笛など）、玩具のセミ、ブリキの金魚、カタカタ、ポップン、土鈴、風鈴、こきりこの竹、紙風船、お手玉、貝の笛、木魚、携帯ストラップの鈴、びんざさら、すりざさら、鳴子、擬音の笛など、私たちの周りにある玩具や音具、民俗音楽の楽器などは、手軽に楽しむことのできる日本の音の世界です。まずは、わずかな種類でもいいですから集めてみましょう。おもちゃですから、子どもたちの家にもたくさんあることでしょう。
- ・集まった音を鳴らして楽しめます。
- ・一人が一つの音を担当し、前の人の音



びんざさら

が終わったら自分の音を出すという約束で、順番に鳴らし、音を回します。笑わないことが大切。なにか規則性を伴った音の世界が誕生してきますね。

- ・木、竹、土、ガラス、紙などのように材質別にグループ分けして音を出したり、「反復」「問いと答え」などの音楽の仕組みを使って音楽づくりをしたりします。
- ・次の文献と挿入CDがとても参考になります。

茂手木潔子著『おもちゃが奏でる日本の音—CD付き』音楽之友社、1998年

◎音が無くなる時：余韻、静寂、無音を聴く

- ・仏教の金属楽器である鑿子（けいす）や鑿（きん）あるいは鈴（れい）など、金属でできた、音を長く引く余韻のある日本の楽器を用意します。
- ・「音が無くなったところで手を挙げましょう。」と指示し、子どもに目をつむらせ、おもむろに一音響かせます。静かに、おしゃべりせずに全身を耳にして聴くことが大切です。
- ・今度は、目を開けたまま同じように聴かせます。（目は、半開きぐらいがいいと思います。）
- ・最後は、手を挙げることなく、一音に集中して聴きましょう。「あなたの耳は、最初は何を、そして最後は何が聞こえましたか？」と問いかけてみましょう。
- ・聞こえてくる音そのものに集中していたのに、その余韻を聴いているうちに、いつの間にか自分自身が周囲の音の世界に溶け込んでいくような気がします。そうした聴き方を楽しみましょう。例えば、寺の鐘、鹿威し、箏の一音など…、共通した聴き方です。
- ・良寛の耳になることです。

夜もすがら 我が門に鳴く きりぎりす
寝るとか言はむ 声の絶ゆるは（良寛）



鑿子

◎拍子木一つで：「間」を感じ取る

- ・拍子木を一組用意します。手に入らないときは、よく乾き叩くと響く木片でよいでしょう。
- ・「チョン」と子どもの前で打ってみましょう。晴れ渡ったような^き柝の響きが教室に澄み渡ります。
- ・これで出席をとります。「これから名前を呼びます。先生に呼ばれたらお返事をしましょう。」といて、次のようにして柝を入れます。
- ・「〇〇さん」、「ハイ」、<チョン>、「〇〇さん」、「ハイ」、<チョン>、～。
- ・先生は、呼びかけと応答の絶妙なタイミングをはかって「ちょうどよい間（ま）で」柝を入れて下さい。失敗したら「間が悪い」ですよ。
- ・子どもが「間」を感じ取ってきたら、「自分の好物を入れて自己紹介」をします。

- ・「〇〇，ラーメン大好き」，〈チョン〉，「〇〇，カレーライスにハンバーグ」，〈チョン〉，～。
- ・慣れてきたら柝を子どもに任せましょう。ときどき「間が悪くなる」のを楽しみながら，自然に日本の「間」を体得していくことができます。
- ・大相撲の力士紹介の場面を参考にしてみてください。
- ・高見盛，〈チョン〉，青森県出身，東関部屋，〈チョン〉，北勝力，〈チョン〉，栃木県出身，八角部屋〈チョン〉～。
- ・自分たちで，柝を入れた呼びかけをつくっても面白いですね。昔から次のようなものがあります。「火の用心，〈チョン〉，マッチ一本火事のもと，〈チョン〉」。

◎楽器とお話：唱歌を使って音楽づくり

- ・和太鼓（宮太鼓）を一台用意します。
- ・先生が唱える「ドンドンドン」「ドンドコドン」「ドンドンカカカ」などの唱歌（しょうが）を聴いて，叩いてみましょう。少しずつ複雑になっていくと面白いですね。
- ・今度は，先生が太鼓を叩きます。それを子どもに唱歌で唱えさせましょう。さあ，太鼓さんとお話です。太鼓さんは，何と言っているかな？
- ・これに慣れたら，子ども自身に唱歌を作らせます。子どもの作った唱歌を実際に太鼓で叩いてあげましょう。
- ・二人一組になります。「反復」や「問いと答え」といった音楽の仕組みを使って，唱歌で会話をしましょう。
- ・太鼓の両面を使って，グループ発表です。
- ・同様に，締め太鼓（テンツクテン），当たり鉦（チャンチキチン）などの楽器を使ってお話をしてみましょう。
- ・複数の楽器を組み合わせると，もっと面白くなります。

◎風息を楽しむうちに：篠笛の響きを求めて

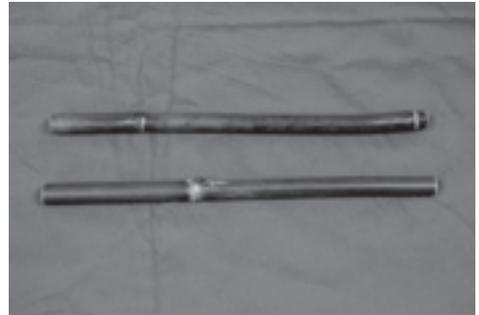
- ・篠笛を用意します。唇を左右に少し引き，吹口から息を入れてみましょう。
- ・どんな音がしますか？ そう，息の音，風の音がしますね。耳を澄ませて吹き，その音を楽しみましょう。
- ・友達の出す音を聴きましょう。それぞれいろいろな音が聞こえますね。風のような音の人，もう笛の音となっている人，みんな篠笛の音です。
- ・吹口に近い指孔を塞いだり開けたりしてみましょう。かすかな風音の音高が変化するのを楽しみます。
- ・みんなでリレーをします。リコーダーと違って，いろいろな音質が生まれてきます。二人一組で「問いと答え」でやりとりしてもいいですね。
- ・少し慣れたら，他の指孔も塞いで，使う音の数を多くしていきます。
- ・すぐに音の出るリコーダーと違って，篠笛は「だんだんと求める響きになっていく」楽器です。その過程を楽しみましょう。音色の質を追求する，それが日本の

楽器の大切なところです。

- ・授業が終わったら、いつでも子どもが手を出して笛を吹くことができる状態にしておきましょう。いつのまにか、音の出る子が出てくるはずです。

◎「こきりこ」で楽しもう：拍の感じや自分の感覚とのずれ

- ・こきりこの竹を用意します。もし無ければ、よく乾いた細い竹を七寸五分（約23cm）に切って使います。（打つだけなら、鉛筆や菜箸などでも学習は可能ですが、響きが違いますので、できるだけ竹を用意してほしいものです。）



こきりこ

- ・CDやDVDを聴いて「こきりこ節」を歌います。一番だけでいいです。
- ・CDやDVDとともに、こきりこの竹を打ちながら歌いましょう。拍の感じをつかむことが肝心です。西洋音楽の2拍子の「強弱」の感覚とは違いますね。
- ・DVDを見ながら、こきりこをどのようにして打っているのか、保存会の人の打ち方をしっかりと見ましょう。次に、まねて打ってみます。なかなか難しいですが、パズルのような面白さがあります。クラスの何人かができるはずです。それを伝え合いましょう。最初からできなくてもかまいません。1週間たつと、できる子どもの数は飛躍的に多くなるはずです。
- ・こきりこには、太鼓（平太鼓）、鼓、鉦金（くわがね）、棒ざさら、篠笛などの楽器の伴奏がついています。打ち物の音とリズムを一つ一つ聴き取りましょう。
- ・太鼓（平太鼓）のリズムを両手で打ってみます。机の上でかまいません。微妙な間があります。このずれを楽しみながら、しかし、このずれがなくなるように打ちましょう。
- ・太鼓（平太鼓）を使って、打ってみましょう。平太鼓がなければ宮太鼓を縦に置く方法もあります。
- ・棒ざさらの音を聴き、口でまねて合わせてみましょう。「ズンズズー、ズンズズー」。これも微妙な拍のずれを聴き取り表現することが肝心です。
- ・楽器が用意できれば、映像を参考にして演奏してみましょう。
- ・このようにして、鼓や鉦金も打ってみましょう。楽器があれば一番いいのですが、鼓は、右手で左手のひらを打つ、鉦金は金属製の楽器でも代用できます。
- ・CDやDVDの入手については、越中五箇山筑子唄保存会指導のホームページが役に立ちます（<http://www1.tst.ne.jp/calm/>）。特にここで紹介されているDVD（『DVDで学ぶ・おぼえる富山県五箇山こきりこ』越中五箇山筑子唄保存会）は、モーションキャプチャーを駆使して作成してあり、大変わかりやすく学習することができます。また、ホームページには、筆者作成の五線譜も掲載されています。ただし、楽譜はあくまでも教師の参考として扱ってください。

日本の笛

日本の横笛には、篠笛、能管^{のうかん}、龍笛^{りゅうてき}、高麗笛^{こまぶえ}、神楽笛^{かぐらぶえ}などの種類があり、いずれも竹で出来ていますが、音色、外観は様々です。

日本の伝統音楽の世界では、音楽（芸能）のジャンルによって用いる笛が異なります。

例えば「能楽」では能管しか使いませんし、「雅楽」では篠笛や能管は使いません。そして各々のジャンルに属する笛の演奏家があり、そのジャンルで用いる笛を演奏しています。同じ楽器であっても、ジャンルにより演奏のレパートリーが異なります。

私の専門は「邦楽囃子」ですが、このジャンルでは篠笛と能管を用いるので、私はその二種類の笛を演奏したり教えたりしている、というわけです。

篠笛

その多様な日本の笛の中で最もポピュラーな笛が篠笛でしょう。祭囃子など各地の民俗芸能、民謡、そして、長唄などの近世邦楽、三味線音楽、歌舞伎などで盛んに用いられています。

篠竹という竹に穴をあけただけという素朴な楽器で、管の内部を漆などで塗り、笛によっては籐などで巻いたものもありますが、構造としては非常にシンプルです。

篠笛には色々な長さ（調子）のものがああります。三味線の調子と同様に一^{ほん}筵、二^{ほん}筵…と呼び、数字が大きくなると半音刻みで調子が高く（長さが短く）なります。

大人が吹く場合は手の大きさにより五〜七筵くらいが吹きやすいのですが、小さな子供の場合は九筵とか十筵でないと指が届かないでしょう。

近年では安価で取扱いも楽なプラスチック製の篠笛も出回っており、授業ではこちらを使う事が多いと思いますが、プラスチック製の篠笛は現在八筵とか七筵くらいしか出ていないので、小学校低学年や手の小さい子供の場合は注意が必要です。

地域により、笛を吹く人の中には自分で笛を作っている人もいますので、もし地元でそういう人があ



作曲家・中川俊郎氏と（撮影：長田 彰）

れば、ご相談なさる事をお勧めします。

竹で作られた手作りの笛にはプラスチック製には無い音色や手触りがあり、その不安定さも含めて笛本来の魅力があります。さらに、もし時間がつくれるようなら、指導してもらって自分たちで竹から篠笛を作るのも素晴らしいと思います。

吹き方

楽器の基本構造はフルートと同じですから、そういう楽器に慣れている人ならば、すぐ音が出ます。但しリッププレートが無いので、最初は口の当て方が難しいかも知れません。

持ち方の特徴としては、右手の4本の指を寝かせて（伸ばして）穴を押さえる、ということが挙げられます。他の楽器に慣れている人にはちょっと気持ち悪い？かも知れません。

フルートとの演奏上の違いとしては、笛では原則としてタンギングを用いないということが特徴と言えるでしょう。アクセントを付けたい時や音を区切りたい時には、指を打ちます。また、音を強くハッキリ出したいときは、声と同じようにお腹を使います。

ビブラートについてもときどき尋ねられますが、私自身はビブラートを付けているつもりは全くありません。（気障な言い方になりますが）ただ思いを込めて吹いているだけです。その結果としてビブラートがついているのでしょうか。

私は師匠から「歌をうたうように吹け」と教わりましたが、本当にその通りだと思います。

選曲，編曲

私が弟子に教える場合は、最初はテキスト（拙著「やさしく学べる笛教本」等）を使って構えや音出し、指の動きに少し慣れてから、さくら、荒城の月などを数曲吹き、やがて長唄などの古典曲や、笛の独奏曲に入っていきます。

学校ではこのように時間をかけて段階的に進めていくのは難しいと思いますが、いずれにしても半音やオクターブ上の高音は難しいので、最初はそういう音があまり出てこない曲を選ぶのがよいでしょう。

わらべうたや子守歌、その地域で世代を問わず皆知っているような歌であれば、篠笛で吹く事もそんなに困難ではないと思われます。世代間の対話の機会にもなるのではないのでしょうか。

時間があれば、いろいろな譜面を用意して、実際に生徒と一緒に吹いてみて頂きたいと思います。いかにも和風という感じの曲が案外難しかったり、意外な曲が面白かったり、そういう発見もあるはずです。移調や運指についても、他の可能性がないかを検討されることをおすすめします。

笛で吹く場合の編曲は、あまりハーモニーを追求しないほうが得策です。音程が不安定になりやすいので、西洋的和声で美しいハーモニーを作るのは至難の業です。

ユニゾンで吹くか（音色や音程が色々なのでユニゾンでも充分面白い）、少しでも一人で吹くソロの部分を作ると良いと思います。

合奏の場合は、短いリズムフレーズや合いの手のような短いパターンを作って、それをくり返

し吹くパートを作ると、楽しい合奏が出来ます。

難しさと魅力

和楽器、特に笛にはアナログでファジーな魅力があります。音色は笛によって、また人によってまちまちですし、音程もなかなか安定せず、そもそも音を出すこと自体が体験的に要領を掴むしかなく、ましてきれいに伸ばすためには非常に微妙なコントロールを要求されます。

耳、指先、呼吸…さまざまな身体部分を総動員して覚えなければなりません。笛を鳴らそう、とか、音を出してやろう、などと思うと上手く行きません。吹く人の心理状態まで音に表れてしまうような楽器です。ですから、あせるとダメ、昨日上手く吹けても今日はダメ、というような事もしばしばです。

しかし、ちょうど声と同じように、どの人にも自分の音色があり、技術的レベルとは別に、その人なりに楽しめる楽器でもあります。

人間どうしの関係のように、様子を見ながら、少しずつ気長に付き合うというのが一番良いようです。もしかすると現代の子どもたちには貴重な体験になるのかもしれない。

フロンティア

笛は様々な邦楽や各地の伝統芸能などでも欠かせない楽器であり、また文学や美術にも度々登場します。しかし笛の独奏や笛を中心とした音楽はまだ少なく、ある意味ではフロンティアの分野でもあります。

したがって、笛を単独の楽器として教えるのは試行錯誤の連続であり、難しさが伴うわけですが、その工夫の仕方次第によっては、結果として新しい音楽領域を開拓する可能性もあると言えますでしょう。

笛の教え方のみならず、選曲、さらには笛の音楽の作曲・編曲についても、現場の先生方の活動の中から、私たち演奏家が学べるものがこれからたくさん出て来るのではないかと期待しております。

日本の笛の音楽がこれからどのように発展して行くのか、皆様と共にその一端に携わって行きたいと思います。



PROFILE ● 福原 徹

四世宗家寶山左衛門（人間国宝・六世福原百之助）に入門、東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。邦楽囃子笛方として古典を中心とした演奏活動の続けると共に、創作や演奏会の企画等にも取り組み、01年第1回リサイタル「徹の笛」により文化庁芸術祭大賞を受賞。東京藝術大学、有明教育芸術短期大学、清泉女子大学などの講師を歴任。著書「やさしく学べる笛教本」（汐文社）。CD「徹の笛」[lift off]（日本伝統文化振興財団）。



Q&A でポイントがひと目でわかる！ 授業の展開例をいち早く紹介！

小学校 学習指導要領の 解説と展開 全14巻



— Q&A と授業改善のポイント・展開例 —

- 監修：安彦忠彦
- 定価：各 1,680 円（本体 1,600 円＋税）
- 各 A5 判／平均 184 ページ

ラインナップ

総則編／国語編／社会編／算数編／理科編／生活編
音楽編／図画工作編／家庭編／体育編／道徳編／
外国語活動編／総合的な学習編／特別活動編

<シリーズの特色>

- 学習指導要領の改訂のポイントを、Q&Aでわかりやすく解説！
- 新学習指導要領に基づく指導計画の作成例・授業の展開例をいち早く紹介！
- 「確かな学力」「習得・活用・探究」「言語活動の充実」など、今次改訂のキーポイントについて解説するとともに、授業改善の手だてを具体的に提示！
- 新設の「外国語活動」の具体的展開について、「外国語活動編」で詳説！
- ベテランの教師にも、新任の教師にも必読の書。また学校・教育委員会等に必備の書！



教育出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10
TEL 03(3238)6965 FAX 03(3238)6999

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

小学音楽通信 Spire_M〔2010年春号〕 2010年3月31日 発行 表紙写真：© KOJI KITAGAWA/SEBUN PHOTO/amanaimages (ムビラ)

編集：教育出版株式会社編集局 発行：教育出版株式会社 代表者：小林一光
印刷：大日本印刷株式会社 発行所：教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

電話 03-3238-6862（お問い合わせ）
E-mail web-service@kyoiku-shuppan.co.jp



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北三条西 3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL：011-231-3445 FAX：011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町 6-7 函館第一生命ビルディング 3F TEL：0138-51-0886 FAX：0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL：022-227-0391 FAX：022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須 4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL：052-262-0821 FAX：052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL：06-6261-9221 FAX：06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町 3-7-2 あいおい損保広島ビル 5F TEL：082-249-6033 FAX：082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道 3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL：089-943-7193 FAX：089-943-7134
九州支社	〒810-0001 福岡市中央区天神 2-8-49 福岡富士ビル 8F TEL：092-781-2861 FAX：092-781-2863
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城 3-8-9 一粒ビル 3F TEL：098-859-1411 FAX：098-859-1411